

2023（令和五）年度
学校法人ハリウッド美容専門学園
事業報告書

2024年5月31日

目 次

I	法人の概要	- 2 -
	1. 建学の精神	
	2. 学校法人の沿革	
	3. 設置する学校・学科	
	4. 学校入学定員・学生数等の状況	
	5. 役員・評議員・教職員の概要	
II	事業の概要	- 2 -
	1. 事業の概要	
	2. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	
	3. 施設等の状況	
III	財務の概要	- 2 -
	1. 貸借対照表の状況	
	2. 資金収支計算書の状況	
	3. 事業活動収支計算書の状況	

I 法人の概要

1. 建学の精神

1946年（昭和21年）にハリウッド美容室が開業し、広域のお客様にご愛好をいただきながら、多くの美容師見習いの方々が九州各地から集まる専門教育の場としても活動をしていた。1956年（昭和31年）には、美容の道を志す九州各地の若き美容師見習いを、美容技術を通して世の中に真心を伝播することができる人材となるよう育成するために、「真心をもってよしとする」を建学の精神とした、「ハリウッド美容専門学校」を設立。翌年の1957（昭和32年）に初代理事長・古賀次男先生、校長・古賀節子先生のもと、財団法人ハリウッド美容学園・私立各種学校ハリウッド美容専門学校として認定され開校し、通信課程を設置。1998（平成10年）に「専修学校ハリウッド美容専門学校」設置。1956年（昭和31年）以来、65年にわたり全国から集まる美容学生を育成してきました。建学の精神「真心をもってよしとする」という考え方が根付いた卒業生が、全国各地・全世界各地で真心をお客様に伝えながら活躍しています。

2. 学校法人の沿革

《法人の設立》

平成11年4月30日 学校法人の設立認可

《学校の設置》

平成10年4月1日 専修学校「ハリウッド美容専門学校」設置

《沿革》

昭和32年	財団法人ハリウッド美容学園・私立各種学校 「ハリウッド美容専門学校」開校・通信課程設置
昭和33年	夜間課程設置
昭和35年	斉美寮完成
昭和37年	校舎一部増築
平成9年	現在の本校舎完成
平成11年	一年制から二年制に移行
平成12年	第二校舎：ハリビタワー完成
平成14年	柳川ハリウッド美容専門学校へ改称 美容学科（ワーキングアカデミー）設置

平成 15 年	ハリウッドワールド美容専門学校へ改称
平成 18 年	エステ学科設置（専門課程）
平成 19 年	第三校舎：かがみ離宮完成 創立 50 周年
平成 22 年	ブライダル学科設置（専門課程）
平成 25 年	美容学科（エステ・ブライダル）設置
平成 27 年	美容学科（エステ専門・エステインターンシップ・ ブライダル専門・ブライダルインターンシップ）設置
平成 29 年	美容学科（トータルビューティアー）設置 エステ学科、ブライダル学科の廃止
平成 31 年	理容学科設置
令和 2 年	メイク学科設置（専門課程） 美容学科（グローバルビューティアーアカデミー）設置
令和 3 年	第四校舎：メイクアップ・ストーリーズ完成
令和 4 年	美容学科（カットマンズ）設置

3. 設置する学校・学科および学生数の状況

ハリウッドワールド美容専門学校

2023 年 5 月 1 日現在

学科名	修業 年限	入学 定員	総定員	1 年	2 年	合計
美容学科（美容専門課程）	2	320	640	251	207	458
美容学科（理容修得者課程）	1	(21)	(21)	(0)	(0)	(0)
理容学科（理容専門課程）	2	20	40	11	3	14
理容学科（美容修得者課程）	1	(5)	(5)	(0)	(0)	(0)
メイク学科（美容専門課程）	2	40	80	1	0	1

※（ ）は各学科定員の内数。

4. 役員・評議員・教職員の概要

役員概要

2023 年 5 月 1 日現在

区分	氏名
理事	古賀 英次

理事	古賀 郁
理事	丸林 愛
理事 (外部)	小柳 精子
理事	北村 一須子
理事 (外部)	丸形 美幸
監事	古賀 博実
監事	菊池 郁夫

	定数	現在数
理事	6	6
監事	2	2
役員 合計	8	8

評議員の概要

2023年5月1日現在

氏名
古賀 英次
古賀 郁
丸林 愛
小柳 精子
北村 一須子
丸形 美幸
吉田 朋姫
松藤 由里子
黒岩 美穂子
古賀 亜由美
池田 慶子
野田 美保子
古賀 大観

定数	現在数
13	13

教職員の概要

2023年5月1日現在

専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
23	108	11	

II 事業の概要

1. 事業の概要

- ① 建学の精神の必守と浸透
- ② 生徒一人一人の入学の目的達成
- ③ 募集 280 名達成
- ④ 留学生募集準備
- ⑤ 国家試験全員合格
- ⑥ 就職全員合格
- ⑦ 職員一人一人の成長教育（DX 教育）
- ⑧ 業務マニュアルの作成と確立
- ⑨ BBS 姉妹校交流
- ⑩ 新しい教育への市場開拓

2. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

① 建学の精神の必守と浸透

建学の精神「真心をもってよしとする」を必守していくために、教職員の朝礼での毎日の唱和を行い、学生の朝夕のホームルームにおいても全員唱和で意識付けを行っている。建学の精神に関して、卒業生の言葉からも「真心」というフレーズが多く出てくるように、学生ひとりひとりに浸透し徹底して価値共有がされている。

② 生徒一人一人の入学の目的達成

当校の目的は、建学の精神に則った人材像と学生個々人が目指す人生像（通

称：入学の目的）を実現させていくことである。学生ひとりひとりの入学の目的をオリエンテーションで整理・共有し、目的達成に向かって学校・地域一体となり教育活動を行なっている。学生の学校生活においても「入学の目的」が卒業まで挫折することなく進んでいく自身の明確な支えとなっている。

③ 募集 280 名達成

募集目標に対して、当該年度の発生事象の影響で達成には至らなかった中で、多くの学生が全国より入学に至った。各学科の定員充足達成へ多様な方法により説明機会と来校数の確保を図る。

④ 留学生募集準備

韓国を中心に海外からの留学生の募集準備を始める。現在は、3名の韓国人留学生が在籍している。その他の国や地域からの受け入れを行うために国内外の日本語学校等に呼びかけを行なっている。

⑤ 国家試験全員合格

2023 年度においては、美容師国家試験合格率 96.9%及び理容師国家試験合格率 100%など、全てのコースにおいて全国トップレベルの高い合格率を収めている。

⑥ 就職全員合格

就職を希望する学生については全員合格を達成。当初、就職をしないと申告していた学生に対してもキャリア指導を行い就職へと繋げている。

⑦ 職員一人一人の成長教育（DX 教育）

職員それぞれに責任者としての役割を持たせ、個々人が主体となって行動していけるように成長教育を行なっている。毎朝の朝礼と週二回の責任者会議で自身の「目的」に沿って進んでいるかを確認して、確実な成長を目指している。とりわけ、コロナ禍で進んだ教育と業務の DX 化を促進している。

⑧ 業務マニュアルの作成と確立

業務の棚卸・整理を行い、業務マニュアルの作成を行っている。広報部については学生募集のマニュアルを作成、教務部については危機管理の対応マニュアルなどの作成したものの運用し修正を重ねながら精度の高いマニュアル

の確立へ進めている。

⑨ BBS 姉妹校交流

韓国 BBS グループとの 20 年以上の姉妹校提携により国際交流を行っている。2023 年度は 10 月に韓国全土の BBS からの 50 名近くの研修団が来校し交流を行い、日韓交流の深い繋がりができた。11 月には、ロイヤルメイクアップコースの学生が韓国を訪問し、BBS にて美容研修を行い、相互交流の流れを復活させることができた。

⑩ 新しい教育への市場開拓

美容分野以外の教育についての市場調査及び、新しい教育分野の展開を検討してきた。今後の中長期の経営計画に盛り込み実施を行なっていく。

3. 施設等の状況

① 土地

所在地	用途	面積(m ²)	摘要
福岡県柳川市上町 44 番 1 及び 隣地	寮	307.32	
福岡県柳川市中町 30 番 4	校地	193.75	
福岡県柳川市坂本町 2 番 1	収益用地	1,271.65	
福岡県柳川市三橋町柳河字又四郎 55 番 1 及び 隣地	校地	16,885.57	
福岡県柳川市新外町 53 番 及び 隣地	寮	1,719.33	
福岡県柳川市宮永町 43 番 3,4, 21	研修用地	649.55	
福岡県柳川市佃町字本田 31 番 1,2,3 及び 隣地	寮	3,583.68	
大分県由布市湯布院町大字川上字宮ノ原 1984-141 及び 隣地	研修用地	712.73	
合計		25,323.58	

② 建物

所在地	用途	面積(m ²)	摘要
福岡県柳川市坂本町 2 番 1	収益施設	155.60	
福岡県柳川市三橋町柳河字又四郎 55 番 1	校舎	6,490.80	
福岡県柳川市新外町 54-2	寮	126.27	
福岡県柳川市宮永町 43-4 他	寮	71.86	

福岡県柳川市三橋町高畑 332	校舎	1110.14	
大分県由布市湯布院町大字川上字宮ノ原 1984-141	研修施設	247.26	
合計		8201.93	

III 財務の概要

1. 貸借対照表の状況

学校法人ハリウッド美容専門学園

貸借対照表

令和 6年 3月 31日現在

(単位:円)

資産の部	
科 目	期末残高
固定資産	1,429,024,790
有形固定資産	1,332,849,430
特定資産	0
その他の固定資産	96,175,360
流動資産	1,130,471,385
資産の部合計	2,559,496,175
負債の部	
科 目	期末残高
固定負債	6,598,800
流動負債	308,400,387
負債の部合計	314,999,187
純資産の部	
科 目	期末残高
基本金	2,262,650,301
繰越収支差額	△ 18,153,313
純資産の部合計	2,244,496,988
負債及び純資産の部合計	2,559,496,175

2023年度は、前年度に対して資産が146,321,364円減少し2,559,496,175円となり、負債が42,222,691円増加し314,999,187円となっている。資産の減少については、当年度内に発生した事象において返金等による学費等での支出の一時的な増加が起因している。負債の減少については、前受金などが減少していることが起因している。

2. 資金収支計算書の状況

学校法人ハリウッド美容専門学園

資金収支計算書

令和 5年 4月 1日から
 令和 6年 3月 31日まで

(単位:円)

科 目		金 額
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	535,996,277
	手数料収入	15,359,290
	補助金収入	52,107,100
	資産売却収入	0
	付随事業・収益事業収入	10,296,000
	受取利息・配当金収入	32,250
	雑収入	30,307,179
	借入金等収入	70,000
	一般収入	27,017,306
	前受金収入	△ 61,357,458
	その他の収入	331,583,565
	資金収入調整勘定	△ 172,925,505
	前年度繰越支払資金	1,109,458,489
	収入の部合計	1,877,944,493
支 出 の 部	人件費支出	201,705,611
	教育研究経費支出	218,640,768
	管理経費支出	128,382,577
	借入金等返済支出	2,199,600
	施設関係支出	26,002,300
	設備関係支出	6,459,781
	資産運用支出	95,202,200
	その他の支出	374,104,371
	[予備費]	
	資金支出調整勘定	△ 50,744,348
	翌年度繰越支払資金	875,991,633
支出の部合計	1,877,944,493	

前年度繰越支払資金は 1,109,458,489 円に対して翌年度繰越支払資金は 875,991,633 円と 233,466,856 円減少する結果となりました。要因としては、当年度内に発生した事象において返金等による学費等での支出の一時的な発生と支払資金の一部運用などの結果によるものです。

3. 事業活動収支計算書の状況

学校法人ハリウッド美容専門学園

事業活動収支計算書

令和 5年 4月 1日から
 令和 6年 3月 31日まで

(単位:円)

科 目		期末残高	
教育活動 収支	事業活動 収入	学生生徒納付金	535,996,277
		手数料	15,359,290
		雑収入	30,307,179
		経常費等補助金	52,107,100
		一般収入	27,017,306
		教育活動収入計	660,787,152
	事業活動 支出	人件費	201,705,611
		教育研究費	268,832,874
		管理経費	132,083,595
		教育活動支出計	602,622,080
教育活動収支差額計		58,165,072	
教育活動 外収支	事業活動 収入	受取利息・配当金	32,250
		その他の教育活動外収入	10,296,000
		教育活動外収入計	10,328,250
	事業活動 支出	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額		10,328,250	
経常収支差額		68,493,322	
特別 収支	事業活動 収入	資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	事業活動 支出	資産処分差額	0
		その他の特別支出	172,591,995
		特別支出計	172,591,995
特別収支差額		△ 172,591,995	
基本金組入前当年度収支差額		△ 104,098,673	
基本金組入額合計		△ 32,462,081	
当年度収支差額		△ 136,560,754	
前年度繰越収支差額		118,407,441	
基本金取崩額		0	
翌年度繰越収支差額		△ 18,153,313	
(参考)			
事業活動収入計		671,115,402	
事業活動支出計		775,214,075	

教育活動収入の合計は 660,787,152 円、教育活動支出の合計は 602,622,080 円となり、58,165,072 円の増加となっております。増加の要因としては、入学者の増加が影響しています。事業活動収入の合計は 671,115,402 円、事業活動支出の合計は 775,214,075 円となり、翌年度繰越収支差額は 18,153,313 円の減少となっております。要因としては、当年度内に発生した事象において返金等による学費等での支出の

一時的な発生によるものです。